

「土木学会イブニングシアター資料集 2013～2016」 から見るイブニングシアターの現状

土木学会土木技術映像委員会 委員兼幹事 正会員○瀧川 正一
土木学会土木技術映像委員会 副委員長 正会員 榊山 清人

1. 目的

平成 28 年 3 月、土木学会土木技術映像委員会は、「土木学会 イブニングシアター資料集 vol4 2013～2016」（以下資料集 vol4 と呼ぶ）を刊行した。同書は今回で 4 冊目の刊行であり、これまで開催された「土木学会土木技術映像委員会イブニングシアター」（以下イブニングシアターと呼ぶ）の開催記録及び動員数やアンケート記録などを収録したイブニングシアターのデータベースである。土木技術映像委員会は、貴重な土木技術映像作品を網羅的に調査・収集・整理、多様な角度から評価し、容易に利用可能な環境を整備し、イブニングシアターは公開・発信の場として、2001 年に始まり、今年 3 月に 94 回を迎えた。この間、多くの土木学会会員の皆様に参加いただいたが、最近では学会員以外の参加者も増えており、そういう方々への土木学会所有の土木技術映像を通し、土木技術に関する情報の発信の場という面も加味されつつある。本論文では「資料集 vol4」のデータを中心に、最近のイブニングシアターの現状と今後の課題について述べる。

2. イブニングシアター運営の現状

「資料集 vol4」の、第 73 回から第 89 回までのイブニングシアター開催実績は図 - 1 のとおりである。開催日は平日で、開催時間は夕刻 18：30 頃から約 2 時間程度。開催ごとに特集を組み、それに沿った作品を上映、同時に専門家や作品作成の関係者を招き講演を行う。会場は土木学会本部講堂が主で、外部のホール及び都内の大学の教室で開催する場合もある。開催の際には土木学会及び当委員会 HP、土木学会が発信するメールマガジン等で広報を行い、同時にメーリングリスト登録者に開催のメールを送付する。終了後参加者にはアンケートを依頼するが、アンケートは開催後当学会 HP に記載欄をアップし、また参加されたメーリングリスト登録者にはメールで記載欄を送付する。

回数	開催年月日	会場	参加者	テーマ等	作品番号	上映作品1	作品番号	上映作品2	作品番号	上映作品3	作品番号	上映作品4
73	H05.6.26	土木学会講堂	129名	映画コウノル受賞作品特集	531	地下岩盤に深く、金部国家石油貯蔵庫基地 水封式地下岩盤貯蔵 建設の記録	510	ボスボラ支線破断断鉄道トンネル 海をわたる旅～（本編、後編）	509	東日本大震災。現場の戦い。すべては被災地のために		
74	H05.8.21	土木学会講堂	54名	夏休みこども特集	504	「三陸の岩盤」に命の道。東日本大震災がもたらした～	460	パッテンライ！ ～海の島の水のながたけ～				
75	H05.10.9	土木学会講堂	98名	鉄道特集	360	街の一体化と安全のために 目黒線不動前～洗足駅間地下切替工事	517	青函トンネル 完成編（日本語版）				
76	H05.12.4	土木学会講堂	105名	初めての都市圏高速道路～開通50年を迎えた名神高速道路～	540	名神高速道路 山科編（工事記録）	417	名神高速道路（4期）のビッグプロジェクトシリーズ①				
77	H06.1.22	土木学会講堂	101名	東京の土のれいまがし～新選定作品から～	544	東京スカイツリー 624mへの挑戦	537	技術を描く 東京ゲートブリッジ橋上道路工事記録	539	復旧版 開閉橋（解説テロップあり）		
78- 1	H06.3.11	文京シビックホール	119名	震災特集		横浜大震災惨状	483	復旧の戦闘～阪神・淡路大震災土木建設の災害記録～	118	津波が心身を守る～津波災害とその教訓～	547	通り来る南海トラフ巨大地震に備えて
78- 2	H06.3.11	文京シビックホール	127名	東京のインフラ特集	545	新しいフォルムの創造～福岡中央公園連絡橋建設記録～	546	東京臨海新交通（ゆりかもめ）の建設	539	開閉橋 復旧版を含む解説映像		
79	H06.6.18	土木学会講堂	87名	都市型水害と土木	488	忘れぬ、東海豪雨	173	未来につなげる地下の川～首都圏外郭放水路～	548	神田川「復興」を機に地下都市工事業～水害から都市の生命と暮らしを守るために～（1）完全版（2）解説版		
80	H06.8.20	土木学会講堂	51名	夏休み緊急特集～梅雨は防災害～	257	亀の瀬 スリッパスポンサー	379	離れ～大地のいとなみと私たち～	469	山が崩れる～地震と土砂災害～ 3D-R/L		
81	H06.10.8	土木学会講堂	160名	鉄道路線の切り替え	553	山崎川トンネルの建設に向けて～都市圏高速鉄道東武東上線開通後～	554	東京外環状新線（小竹田駅～千代田駅）建設記録	555	東武東上線開通後～都市圏高速鉄道東武東上線開通後～		
82	H06.12.10	中央大学後援会キャンパス	144名	土木学会の百年 あなたが選ぶベスト3	503	北越北線 須立山トンネル工事～超断崖性山との戦いの記録～	405	青函トンネル 完成編（日本語版）	531	地下岩盤に深く、金部国家石油貯蔵庫基地 水封式地下岩盤貯蔵 建設の記録		
83	H07.1.21	土木学会講堂	52名	エネルギーと土木	207	LNG地下タンクの最先端技術	362	大規模地下空掘削工事にも挑む！九州電力小丸川開電所	536	涼風化との闘い。を越えて。清安。被災30日のドキュメント		
84	H07.3.31	土木学会講堂	75名	震災特集	483	復旧の戦闘～阪神・淡路大震災土木建設の災害記録～	536	涼風化との闘い。を越えて。清安。被災30日のドキュメント	548	東京スカイツリー～その魅力を伝えるもの～		
85	H07.4.23	文京シビックホール	291名	佐久間ダム	465	佐久間ダム 経緯編（第1部～第3部）						
86	H07.8.21	土木学会講堂	89名	第50回映画コウノル受賞作品	547	通り来る南海トラフ巨大地震に備えて	553	山崎川トンネルの建設に向けて～都市圏高速鉄道東武東上線開通後～	555	東武東上線開通後～都市圏高速鉄道東武東上線開通後～		
87	H07.11.24	土木学会講堂	113名	海神に挑む	510	ボスボラ支線破断断鉄道トンネル 海をわたる旅～（本編、後編）	187	未知への旅立ち～明石海峡大橋上部工～	339	海をわたる旅～明石海峡大橋上部工～		
88	H08.1.20	中央大学後援会キャンパス	46名	自然と闘った！先人たちのアニメ特集	462	私たちの暮らしと土木シリーズ 01人をつなぐ道をつかったおとぎ話～ 02氷とたたかっていた戦国の武将たち	277	ビデオ私たちの暮らしと土木シリーズ 02氷とたたかっていた戦国の武将たち（完全版）の記録	227	九段川川と少年		
89	H08.3.16	土木学会講堂	103名	震災特集～東日本大震災から5年 復興は		海上保安官が見た巨大地震と東日本大震災復興支援	509	東日本大震災。現場の戦い。すべては被災地のために				

図 - 1 土木学会土木技術映像委員会イブニングシアター 第 73 回～第 89 回

3. 数値で見るイブニングシアターの現況

開催の際、会場設営等の必要から毎回事前申し込みを受け付けている。この段階で申込者が 100 名近くに上る。キーワード 土木学会イブニングシアター資料集、イブニングシアター、土木技術映像、アンケート

連絡先 〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園（公社）土木学会付属図書館 TEL 03-3355-3596
することも多い。この段階での構成比は学会員よりも非学会員のほうが多く、事前申し込み者全体から見る非

学会員比率は3割以上である。実際に参加した実参加者は、天候等の影響も加味しつつも、概ね事前申し込みの7割前後で推移している。事前申し込み、実参加数及びアンケートの数値を図-2で示す。

[illegible]

図-2 土木学会土木技術映像委員会イブニングシアター アンケート等数値

アンケート回収率は概ね 3 割程度。アンケート回答者の年齢構成は 20 代、30 代よりも 40 代から 60 代以上の方が多く、年齢構成における 40 代から 60 代以上の割合は 9 割以上となる。性別は男性が多く、ほぼ 9 割が男性となる。職業別では土木関係者や土木系学生がその他を上回っており、事前申し込みの数値を鑑みれば、非学会員にも土木系関係者が多いことが伺われるが、土木系以外の“その他”の参加者数も 3 割以上で推移していると思われる。参加回数は 2 回以上の方が多く、2 回～4 回以上が 7 割以上に達し、リピーターが多く存在していることが判る。情報入手経路は登録者メーリングリストによる上映案内メールおよび当委員会 HP の広報による入手が 6 割以上で、ここからもリピーターの多さを確認できる。また知人より入手が多いことが注目できる点であると言える。これはリピーターからの口コミの効果も考えられる。

4. まとめ

課題としては、アンケート回答者数の向上がある。実参加者に比べアンケートの回答は少ない。これは開催後日にアンケート記載を依頼する状況も影響しているものと考えられる。WEB を活用したアンケート方式は感想等の記述も用紙への記載に比べ容易、集計作業の軽量化などを考慮すれば今後も維持する必要があるが、時間が経過すると回答を得るのが難しくなっているものと思われる。例えば当日にはHPにアンケート書式をアップし、スマホ等でその場で回答できるような方法も検討したい。実際には20代から30代と思われる方や女性、土木系以外の一般の方の参加もアンケートの数値以上に多く見られる。今後はこういう方々からのご意見もより一層得られるような方法を検討し、これからのイブニングシアターの運営に生かしていくことも必要と思われる。広報についてはイブニングシアター開催を更に多くの方々の目に触れてもらうため、当委員会HPの一層のPR等の方法を検討する必要がある。今後もイブニングシアターのデータベースである「土木学会イブニングシアター資料集」を刊行・活用し、効果的な土木技術の情報発信方法を確立していきたい。

参考文献

- ・土木学会 イブニングシアター資料集 vol4 2013～2016
- ・土木学会 土木技術映像委員会ホームページ： <http://committees.isce.or.jp/avc/>